令 和 4 年 1 0 月 2 0 日
生 活 文 化 ス ポ ー ツ 局
公益財団法人東京都歴史文化財団

国際映画祭で活躍するアジアの映画人を多数輩出

未来の映画監督を育成する「タレンツ・トーキョー2022」

＝＝ 授賞式 取材のご案内 ＝＝

2022 年 11 月 5 日（土）16:30～ 赤坂にて

今年のカンヌ国際映画祭のカメラドールスペシャルメンションを受賞した早川千絵監督、ヴェネチア国際映画祭のオリゾンティ部門ノミネートの石川慶監督らを輩出した映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2022」を、令和４年 10 月 31 日（月）から 11 月５日（土）まで開催いたします。

選抜によって選ばれた未来の映画界を担う参加者（タレンツ）15 名は、国際的に活躍している映画人による映画製作に関するレクチャーや、企画発表（プレゼンテーション）などを通して世界で活躍していくためのノウハウを学びます。また、最終日である **11 月５日（土）** には、事業期間中にあらかじめ実施された公開型の最終プレゼンテーション（※オンラインにてライブ配信）の中から、優秀な企画を１点選抜し、授賞式（港区赤坂にて：ゲーテ・インスティトゥート東京）を実施いたします。

未来のフィルムメーカーを、是非ともご取材いただきますよう、よろしくお願いいたします。

取材についての概要

1 **オンライン取材が可能なプログラム**（※）

（1） **オープン・キャンパス** ：11 月３日（木・祝） 13：00－14：00

講演「コロナ禍での映画制作」 登壇 アンソニー・チェン氏（TT2010 修了）、レイモンド・パッタナーウィラクーン氏

（2） **公開プレゼンテーション** 11 月３日（木・祝） 14：30－17：30

15 名の参加者（タレンツ）は、10 月 31 日（月）よりプレゼンテーション実習、グループ・ディスカッション、各種講義を重ねて、この日トレーニングの一環として、公開型の最終プレゼンテーションに臨みます。

2 **オンライン取材、現地取材共に可能なプログラム**

授賞式及び閉会式 ：11 月５日（土）16：30－17：00

11 月３日（木・祝）に行った公開プレゼンテーションを行った企画のうち、優秀な企画１点を表彰いたします。

«こちらの QR コードから下記情報をご覧いただくことができます»

タレンツ・トーキョーについて　　修了生のレポート

タレンツ・トーキョー2019 の様子

＜取材に関する問い合わせ先＞
生活文化スポーツ局文化振興部文化事業課 沼倉／田島 電話 03-5388-3153 内線 29-460
公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 糸園／圓城寺 電話 03-6256-8432

タレンツ・トーキョーについて

名　称：タレンツ・トーキョー2022（Talents Tokyo 2022）
期　日：令和４（2022）年 10 月 31 日（月）から 11 月５日（土）まで
　　※「第 23 回東京フィルメックス」開催期間中の 6 日間
会　場：ゲーテ・インスティトゥート東京（東京都港区赤坂 7-5-56）
　　サテライト会場（オンライン中継）　有楽町朝日スクエア（東京都千代田区有楽町 2-5-1）
対象者：映画監督、プロデューサーを目指す東アジア、東南アジアの者 15 名
主　催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、タレンツ・トーキョー実行委員会
提　携：ベルリン国際映画祭（ベルリナーレ・タレンツ）
協　力：ゲーテ・インスティトゥート/東京ドイツ文化センター
※タレンツ・トーキョー2022 のメイン講師及び参加者については、別紙 1 をご参照ください。

※会場環境及び新型コロナウイルス感染症対策の観点から、基本オンラインでのライブ配信となります。
※なお、11 月 3 日は有楽町朝日スクエア（東京フィルメックス会場）にサテライト会場をご用意しています。
※ただし、録音・録画・スクリーンショット等撮影はできません。
※終了後に事務局より映像、スチール画像、音声素材を提供いたします。（各媒体の音声は英語のみ）
※公開プログラムの詳細及び取材については、別紙 2 をご参照ください。

＜タレンツ・トーキョー2022 に関する問い合わせ先＞
タレンツ・トーキョー実行委員会　TEL：　03-6258-0333
Email: talents@filmex.jp　ホームページ：https://talents-tokyo.jp

別紙1

※参加者向け（非公開）講義を行う講師のご案内

「タレンツ・トーキョー 2022」 メイン講師

（左から、アンソニー・チェン氏、レイモンド・パッタナーウィラクーン氏、シエ・モン氏、フロリアン・ウェグホルン氏）

アンソニー・チェン（監督）

映画監督･プロデューサー。シンガポール出身。シンガポールの映画学校とイギリスの National Film and Television School で学ぶ。短編が映画祭で上映され、いくつかの賞を受ける。
長編デビュー作『イロイロ ぬくもりの記憶』が 2013 年のカンヌ国際映画祭でカメラ・ドールを受賞。その後、ロンドン映画祭で Sutherland 賞や金馬奨で 4 部門を含む国際映画祭で 40 の賞を受賞。長編二作目の『熱帯雨』（2019）はトロント国際映画祭コンペティション部門に出品。金馬奨で 6 部門にノミネートされ、国際映画祭で 12 の賞を受賞する。どちらの作品もアカデミー国際長編映画賞のシンガポール代表として選ばれる。短編最新作『The Break Away』がアンソロジー作品『永遠に続く嵐の年』の一部として発表。アメリカの配給会社 Neon プロデュースの今作は、2021 年カンヌ国際映画祭で上映。現在、初英語作品『Drift』と初中国作品『The Breaking Ice』を制作中。
プロデューサーとしてはシンガポールに拠点を置く自社 Giraffe Pictures で活躍。Giraffe Pictures の最新作には釜山国際映画祭コンペティション部門に出品された HE Shuming の長編デビュー作『Ajoomma』や、ロカルノ国際映画祭で上映された Sorayos PRAPAPAN の長編デビュー作『Arnold is a Model Student』などがある。
現在は香港を拠点とし、ヨーロッパとアジアで活動。

レイモンド・パッタナーウィラクーン（プロデューサー）

脚本集中プログラム東南アジアフィクションフィルムラボ SEAFIC の元エグゼクティブディレクター。トロント国際映画祭のインターナショナルプログラマー、香港国際映画祭とカンヌ国際映画祭批評家週間のプログラムコンサルタントとして従事していた。かつては、インターナショナルセールスエージェントのフォルテシモフィルムズのマーケティングと特別プロジェクトのディレクターを務め、香港アジアフィルムファイナンシングフォーラム（HAF）の委員やアジアンフィルムアワー

ドのアドバイザリーメンバーも担った。ベルリン国際映画祭や香港、サラエボ、シアトル、アンタルヤをはじめとする多くの国際映画祭の審査員を務めた経験もある。他には、『13 人の命』（コ・プロデュース／ロン・ハワード監督／2022）、『サムイの歌』（ペンエーグ・ラッタナルアーン監督／ヴェネチア国際映画祭ヴェニスデイズ部門オープニング 2017）、『見習い』（ブー・ユンファン監督／カンヌ国際映画祭ある視点部門 2016）、『チェッカーで（毎回）勝つ方法』（ジョシュ・キム監督／2015）、『アバディーン』（パン・ホーチョン監督／2014）、『ヘッドショット』（ペンエーグ・ラッタナルアーン監督／ベルリン国際映画祭パノラマ部門 2011）、『ドリーム・ホーム』（パン・ホーチョン監督／2010）など多くの国際共同制作を手がけている。2013 年にはスクリーン・インターナショナルより“Future Leaders: Producers”、2017 年には釜山の Asian Film Commission により“Producer of the Year”に任命される。

シエ・モン（ワールド・セールス）

中国出身。Rediance の創設者であり CEO。プロデューサーとして参加した作品には、アンソニー・チェン監督の『The Breaking Ice』（2022）、『The Break Away』（2021）、『熱帯雨』（2019）、GENG Jun 監督の『Manchurian Tiger』（2021）、『Free and Easy』（2016）、アピチャッポン・ウィーラセタクン監督の『MEMORIA メモリア』（2021）、ベン・リヴァースとアノーチャ・スウィチャーゴーンポン共同監督作品『Krabi, 2562』(2019)などがある。Rediance が手がけた作品には『Piaffe』（2022）、『永安鎮の物語集』（2021）、『Whether the Weather is Fine』（2021）、『気球』（2019）、『The Science of Fictions』（2019）、『象は静かに座っている』（2018）などがあり、30 以上の作品で賞を受賞し、国際マーケットに売り出した。
2009 年から 2014 年まで、ユーレンス現代芸術センターの映像キュレーターを務める。審査員として、トロント国際映画祭、CPH：DOX、FIDMarseille、北京国際映画祭、FIRST Film Festival Xining に招待される。2021 年には平遥国際映画祭から中国映画への国際的な貢献を讃えた賞を贈られる。

フロリアン・ウェグホルン（Berlinale Talents）

ベルリン国際映画祭の人材育成プログラム、ベルリナーレ・タレンツのプログラム・マネージャー。7 ヵ国に渡り、1 万人の修了生を誇るタレンツ・インターナショナルのアドバイザーも務める。
1976 年、ドイツ・オルデンブルグ生まれ。ケルン大学で Theatre, Film and Television を学ぶ。2002 年にベルリン国際映画祭のジェネレーション部門に参加。2008-2014 年には同部門の共同ディレクター・キュレーターとして、短編・長編含め 60 作品を毎年上映。2012-2019 年には同映画祭のコンペティション部門の選定委員を務めた。
ヨーロピアン・フィルム・アカデミーの一員としてベルリン国際映画祭以外の映画祭や、フィルム・ファンド、文化施設に携わる。映画と若者に関する出版物をいくつか執筆・編集している。
© photo: Alexander Janetzko

「タレンツ・トーキョー2022」　参加者（タレンツ）

監督：

Lomorpich Rithy aka. YoKi（カンボジア）
XIAO Baer（中国）
Aldo Swastia（インドネシア）
慶野優太郎（日本）
奥野俊作（日本）
SON Heui Song（韓国）
Ananth Subramaniam（マレーシア）
Maung San（ミャンマー）
Charlotte HONG Bee Her（シンガポール）
Siyou TAN（シンガポール）
Cheryl WONG（シンガポール）
LIM Lungyin（台湾）

プロデューサー：

宮瀬佐知子（日本）
KUO Ming-Jung（台湾）
Joshua LEVY（ベトナム）

＊氏名（国名／地域名）

＊タレンツ名は国名／地域名のアルファベット順で表示しています。

【参考】タレンツ・トーキョー修了生の主な実績（カッコ内は参加年）

・アンソニー・チェン（2010 年）監督
『イロイロ ぬくもりの記憶』2013 カンヌ国際映画祭カメラ・ドール（最優秀新人監督賞）他多数
・石川慶（2011 年）監督
『ある男』2022 ヴェネチア国際映画祭オリゾンティ部門出品、『蜜蜂と遠雷』毎日映画コンクール作品賞他多数
・ビアンカ・バルブエナ（2012 年）プロデューサー
『痛ましき謎への子守唄』（ラヴ・ディアス監督）2016 ベルリン国際映画祭銀熊賞（アルフレッド・バウアー賞）
・早川千絵（2014 年）監督 / 水野詠子（2019 年）プロデューサー
『PLAN 75』2022 カンヌ国際映画祭カメラ・ドール スペシャル・メンション、米アカデミー賞日本代表
・ヨー・シュウホァ（2015 年）監督
『幻土』2018 ロカルノ国際映画祭金豹賞（最優秀作品賞）、米アカデミー賞シンガポール代表他多数
・小田香（2015 年）監督
『セノーテ』芸術選奨文部科学大臣新人賞他多数
・ソラヨス・プラパパン（2015 年）監督
『アーノルドは模範生』2022 ロカルノ映画祭新進監督コンペティション部門出品
・ニアン・カヴィッチ（2016 年）監督
『ホワイト・ビルディング』2021 ヴェネチア国際映画祭オリゾンティ部門男優賞他多数
・ユリア・エフィナ・バラ（2020 年）プロデューサー
『自叙伝』（マクバル・ムバラク監督）2022 ヴェネチア国際映画祭オリゾンティ部門出品

別紙2

【「タレンツ・トーキョー2022」公開プログラム取材のご案内】

1　取材及び視聴申込方法

（1）公開プログラム　オンライン視聴及び11月３日（木・祝）のサテライト会場視聴

「３　撮影について」、「４　取材における留意事項」にご同意の上、

令和４年１１月１日（火）正午までに、以下の申込フォームよりお申し込みください。

https://forms.gle/DXSkfpQNg7Cjd7Rw6

ご登録いただいたメールアドレス宛に、サテライト会場での視聴方法・当日配信するYouTubeの視聴方法をお送りします（前日のお昼頃の予定）。

各プログラムとも開始時刻の15分前より入室できます。プログラム開催中の入退室は自由です。

（2）**授賞式及び閉会式**の現地取材

「４　取材における留意事項」にご同意の上、**令和４年１１月１日（火）正午**までに、タレンツ・トーキョー実行委員会事務局へメール（talents@filmex.jp）でお申し込みください。

当日、**受賞者及び講師へ個別取材**をご希望の場合は、申込の際にその旨ご記入ください。

2　公開プログラム概要

（1）11月3日（木・祝）13：00－14：00　オープン・キャンパス

「コロナ禍での映画制作」をテーマに、講義を行います。 登壇者：アンソニー・チェン監督、レイモンド・パッタナーウィラクーン氏【日本語同時通訳あり】

（2）11月3日（木・祝）14：30－17：30　公開プレゼンテーション

タレンツが映画業界関係者に対して、自身の企画のプレゼンテーションを行います。 【日本語同時通訳あり】

（3）11月5日（土）16：30－17：00　授賞式及び閉会式

公開プレゼンテーションを行った企画のうち、優秀な企画１点を表彰します。 【日本語逐次通訳あり】

※各プログラムは限定公開のYouTube（英語・日本語同時通訳）にてご覧いただけます。（どなたでもご覧いただけますが、視聴には申込が必要です。詳細は１をご覧ください。）

3　撮影について

（1）サテライト会場及びオンライン上では、すべてのプログラムにつきまして、**録音・録画・スクリーンショット等撮影はご遠慮ください。**著作権及び営業秘密保護のため、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

（2）**公開プログラム（「オープン・キャンパス」、「公開プレゼンテーション」、「授賞式及び閉会式」）につきましては、事務局より映像、スチール画像、音声素材を終了後に提供致します。**ご希望の方は、申込フォームへご記入ください。

（3）**非公開プログラムについては、事務局からスチール画像の提供が可能ですのでご相談ください。**

４　取材における留意事項

（１）企画の著作権及び営業秘密保護のため、視聴方法を他者にお伝えすることはお控えください。

（２）講師やタレンツへ個別取材をご希望される場合は、タレンツ・トーキョー実行委員会事務局へメール（talents@filmex.jp）にてご相談ください。

（３）プログラムの内容は変更になる場合がありますので、ご了承ください。